

表4 被災当日の保健活動

優先 順位	市町村						県
	1G	2G	3G	4G	5G	6G	7G
1	C 医療救護 救護所設置	C 医療救護 ケガ人の対応 (トリアージ、手当)	C 医療救護 避難所、救護所の設 置	E 安全・物資確保 自分の居る場所の安 全確保	B 活動体制 所内の体制づくり、 役割分担	C 医療救護 ケガ人の対応 (トリアージ、手当)	B 活動体制 所内の体制づくり、 役割分担
2	B 活動体制 応援要請	C 医療救護 医療機関への連絡、 協力体制	C 医療救護 ケガ人の対応 (トリアージ、手当)	B 活動体制 避難所の設置と保健 師の配置	C 医療救護 ケガ人の対応 (トリアージ、手当)	B 活動体制 避難所の対応指示	C 医療救護 ケガ人の対応 (トリアージ、手当)
3		C 医療救護 避難所、救護所設置 準備	A 情報収集 医療機関の被害状 況の確認	A 情報収集 避難者の健康確認	C 医療救護 救急対応の要請 (HP、本部、HCな ど)、	E 安全・物資確保 職員の居る場所の安 全確保	A 情報収集 医療機関の被害状 況の確認
4		B 活動体制 所内の体制づくり、 役割分担	D 要援護者対策 要援護者の安否確 認	A 情報収集 医療機関・医師会の 状況確認	C 医療救護 救護所設置	E 安全・物資確保 活動必要物品確保	A 情報収集 市町村状況確認
5		E 安全・物資確保 職員自身の業務対 策(食、防寒、灯油、 トイレなど)	A 情報収集 災害本部の方針の 確認	E 安全・物資確保 職員自身の業務対 策(暖房、食糧確認、 夜への備えなど)	D 要援護者対策 要援護者の安否確 認作業(TEL、HV)→ 依頼、指示	D 要援護者対策 情報整理、名簿の準 備	D 要援護者対策 難病患者の安否確 認
6		D 要援護者対策 精神・発達障害児・外 国人等集団生活に配 慮を要する人の支援				E 安全・物資確保 職員自身の業務対 策(宿泊の準備)	C 医療救護 (医薬)DMATの調整 (保健所長と共に)
7		B 活動体制 県への応援要請					
A			2	2			2
B	1	2		1	1	1	1
C	1	3	2		3	1	2
D		1	1		1	1	1
E		1		2		3	

表5 避難所住民向け健康教育テーマ

	市町村						県	回答数
	1G	2G	3G	4G	5G	6G	7G	
感染症対策	手指消毒, マスク	手洗い, マスク	手洗い, うがい		インフル, 胃腸炎	手洗い, うがい	インフル, ノロ対策	7
エコノミークラス症候群予防								6
生活不活発病予防対策								3
こころのケア対策	不眠		精神的落ち込み				不眠	4
生活環境衛生上の対策		換気, トイレ衛生		換気, ごみ		トイレ衛生	CO中毒	4
歯科保健対策、口腔ケア								2
避難所運営の支援				役割分担, コミュニティ				1
服薬管理								1
その他					健康管理について			1

表6 震災後1か月以降の保健活動計画

	市町村						県	回答数
	1G	2G	3G	4G	5G	6G	7G	
通常業務の再開			母子健診				療育相談	5
在宅全戸訪問調査								4
応急仮設住宅入居者調査								4
〃 コミュニティ対策								5
要援護者対策								3
こころのケア対策		避難所, 在宅, 学校						3
避難所健康相談								4
職員の健康管理								1
災害活動まとめ(～1か月)				調査まとめ(委託)				2
その他						・サービス利用調査 ・健康課題確認		1
								1

## 災害時における妊産婦・乳幼児の災害時情報収集に関する検討

研究分担者：吉田 穂波（国立保健医療科学院 生涯健康研究部）

### 研究要旨

目的：急激な少子高齢化を受け、妊産婦や乳幼児は社会的マイノリティとなっている。東日本大震災では地域の防災計画に妊産婦や乳幼児救護、母子保健サービスの提供及び支援の視点が不足していたことが明らかになった。被災地の女性や子どもを医療・保健・福祉・教育の面から総合的に支援することは被災地の人的リソースの活用につながり、家族・コミュニティのエンパワメントおよび復興への効果が高いということが海外の調査でわかっており、次の大規模災害では次世代救護のためにより一層の備えが求められる。

これまで周産期分野における災害対応は医療・保健どちらの分野からも手をつけられずにきたが、次の災害で有効に機能するツールとして①妊産婦・乳幼児向け避難所②災害時救護マニュアル、チェックリスト③平時の連携（教育、地域、医療、行政等）と研修④妊産婦向け啓発パンフレットや教材を厚労省の研究班で開発した経緯と自治体の先行事例をお示しする。

研究方法：産婦人科医、助産師、災害医療専門家によって構成されるワーキング・グループで母子救護マニュアル、チェックリスト、アクション・カード、避難所母子入所者名簿、母子避難所ゲーム等災害時に必要となる様々なツールを開発し、いくつかの自治体における災害時母子救護研修で使用した。また、助産師会、地元ボランティア団体、周産期医療関係者とともに研修を行った際にそれらのツールを使い、研修内容やツールに改善を加えた。

研究結果・考察：災害時に母子を扱う制度設計がなされていない現在、このようなツールを用いて、地方自治体、保健医療機関、消防、警察、住民と一緒に災害時母子救護について学ぶ研修をサポートすることで、平時より関係者が次世代に関する連携を作り、人間関係を構築する必要性が明らかになった。

### 研究背景

現在、日本は世界一の少子高齢化国となり妊婦や乳幼児がマイノリティとなった。今後ますます出産数が少なくなる中で大規模災害が起こった場合、災害医療従事者や行政、消防関係者が母子を探し守るシステムを持っていれば、次世代の命を救い、大きな社会的損失を防ぐことが出来る。被災地の母子を救護することは地域の人的リソース活用、エンパワメントおよび復興へ与える効果が高いということがわかっており、今後は平時から母子の救護体制を作ることが、最優先に取り組むべき課題となる。これまで周産期災害対応は医療・保健どちらの分野からも手をつけられずにきたが、母子は自助・共助の面を強化することでお互いに助け合える存在であり、集めることで支援の手が届きやすくなるというメリットがある。

し萎えれば行けない時に備え、地域の避難所が母子の安全をサポートするために必要なツールを開発する。また、それらのツールを実際に妊産婦救護所ゲームの中で使用し、改善を加える。また、研修のコンテンツを作り、どの地域でも同じ質の高さで研修を実施できるようパッケージ化する。

### B. 調査方法：

母子が避難する際に必要となるデータに関し、ワーキング・グループで項目を抽出した。

### C. 研究結果：

1. ワーキング・グループによる検討：実際に一般避難所、または急性期救護所に常備しておくためのツールが開発された。（図1~10）

A. 目的：災害時に妊産婦や乳幼児が避難

2. 研修におけるフィードバックの解析：一般

避難所内では特に、妊産婦は認知されにくく、そのニーズを把握されにくい存在である。研修において使用する資料をまとめた。

#### D. 考察

ワーキング・グループによる検討において開発された災害時母子救護ツールを、研修におけるフィードバックを活かして改善し、より有用性の高いものに改変したことで、地域の実情に合わせたマニュアルや連携体制を作るための実践的な基盤を開発することが出来た。

#### E. 結論

今回は災害時母子救護のための取り組みをまとめた、日本で初のワーキング・グループによる情報共有方法検討の機会を作ることが出来た。災害時の母子救護所、母子避難所に関し解決すべき課題が明らかになり、今後の日本の災害時母子保健対応を成功させるために重要な知見が得られたと思われる。また、母子を取り巻く関係者同士の研修が有益な情報交換の場となり、既存の母子保健体制にとって相乗効果が得られたことも特筆すべきことである。我が国において、今後地域の実情に合わせた災害時周産期医療・母子保健対応連携を設計するには今回の分析から見えてきた知見を活かし、さらに良い研究成果を生むために複数の研究を統合させていくなど、新たなアプローチが必要となるであろう。

#### F. 謝辞

本研究は、国立保健医療科学院生涯健康研究部佐久間倫子氏と大塚恵理子氏の技術と熱意によるところが大きく、ここに深謝いたします。

#### F. 健康危機情報

なし

#### G. 研究発表

##### 【原著論文】

1. 吉田穂波. 低出生体重児の増加の原因と効果的な保健指導方法を探る. 茨城県母性衛生学雑誌. 2014;32:39-42
2. 吉田穂波、加藤則子、横山徹爾. 人口動態統計から見た長期的な出生時体重の変化と要因について. 保健医療科学. 2014;63(1):2-16
3. 加藤則子、瀧本秀美、吉田穂波、横山徹爾. 乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査. 保健医療科学. 2014;63(1):2-16

4. 吉田穂波、加藤則子、横山徹爾. 我が国の母子コホートにおける近年の状況、及び母子保健研究から今後への展望. 保健医療科学. 2014;63(1):2-16

5. 吉田穂波. 災害時の母子保健—妊産婦を守る助産師の役割⑫妊産婦を守るための平時からの備え. 助産雑誌. 2014;68(1):72-77

6. 吉田穂波. 災害時の母子保健—妊産婦を守る助産師の役割⑬いざというときの安心リソース. 助産雑誌. 2014;68(2):166-171

7. 吉田穂波. 災害時の母子保健—妊産婦を守る助産師の役割⑭必ず成功する災害時の妊産婦支援マニュアル—東日本大震災の経験から. 助産雑誌. 2014;68(3):252-256

8. 吉田穂波. 東日本大震災を踏まえた災害時次世代救護のための解決策. 東京保険医新聞. 2014;1602:2

9. 吉田穂波. 小さな命を救え！災害時の母子支援. 診療研究. 2015;505:33-38

10. 吉田穂波. 小さいけれど、大きな未来を抱えた「いのち」～災害時に胎児や子どもを守るため、どんなシステム作りが進められているのか、何が出来るとか～. 近代消防. 2015;53(1):118-120

11. 吉田穂波、林健太郎、太田寛、池田祐美江、大塚恵子、原田菜穂子、新井隆成、藤岡洋介、春名めぐみ、中尾博之. 東日本大震災急性期の周産期アウトカムと母子支援プロジェクト. 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2015;38(1):1-6

##### 【学会発表】

1. 吉田 穂波、新井隆成、春名めぐみ、中尾博之. 領域横断的な災害時母子救護システム構築の最先端. 第20回日本集団災害医学学会学術集会;2015.2.25-28;東京. J.J.Disast.Med. 2014;19(3):410.

2. 加藤則子、吉田穂波、瀧本秀美、横山徹爾. 2005年以降の我が国における出生体重減少鈍化の要因に関する研究, 2014.11 第73回日本公衆衛生学会, 宇都宮

3. H. Yoshida. Crisis Management for Post-Disaster Maternal Care. 12th APCDM. 2014.9.17; Tokyo. Final Abstract. 2014 p.98

4. H. Yoshida. Community Preparedness on Maternal and Child Shelter for Post-Disaster Maternal Care. 12th APCDM. 2014.9.17; Tokyo. Final Abstract. 2014 p.91

5. H. Yoshida. Lessons Learned from Great East Japan Earthquake and

preparedness for the next generation.

Perinatal Care Conference in Yokosuka Navy Hospital; 2014.9.15;横須賀, Perinatal Care Conference. Final Abstract. 2014.p. 1

6. 吉田穂波、菅原準一、新井隆成、中尾博之、春名めぐみ.東日本大震災における災害時の胎内環境が次世代に遺す要因. 第3回日本DOHaD研究会学術集会;2014.7.25-26;東京.DOHaD研究. 2014; 3(1): 64

7. 吉田穂波. 子どものいない未婚男性における「挙児意向」に影響する要因. 第24回日本家族社会学会;2014.7.6-7;東京. 第24回日本家族社会学会抄録集 2014.

8. H. Yoshida. Lessons Learned from Great East Japan Earthquake - Birth Outcomes in the Catastrophe of Highly Aged Country. XVIII ISA World Congress of Sociology. 2014.7.17; Yokohama. Final Abstract. JS-60.2. p.1094

9. 吉田穂波. 災害時の母子救護システム構築. 第50回日本周産期・新生児学会学術集会. 災害ワークショップ;2014.7.13-16;浦安. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 2014; 49(2): 606-6

10. 吉田穂波. 自然災害から子どもを守る. 第6回都市防災と集団災害医療フォーラム; 2014.5.14;東京, 第6回都市防災と集団災害医療フォーラム抄録集. 2014.p.3

11. 吉田穂波. ナショナル・データベースの解析からわかる未来の健康. 第40回大学院医歯学総合研究科大学院セミナー;2014.5.19;東京. 第40回大学院医歯学総合研究科大学院セミナー抄録集.2014.p.9

H. 知的財産権の出願・登録状況  
なし

#### 【資料一覧】

- 資料 1 妊産婦初期対応問診票(妊婦)
- 資料 2 リスク表(妊婦)
- 資料 3 母子避難所入所者名簿
- 資料 4 避難所等母子保健アセスメント表
- 資料 5 避難所入所者名札
- 資料 6 部屋割り表(妊婦)
- 資料 7 部屋割り表(母子)
- 資料 8 部屋割り表(きょうだい)
- 資料 9 情報書(妊婦)
- 資料 10 情報書(母親)
- 資料 11 リスク表(母親)
- 資料 12 情報書(乳児)



現病歴	薬（ ）持参あり・なし
既往歴	前回帝王切開 あり・なし

外傷	部位	状態	対応
頭部			
胸部・背部			
腹部・腰部			
上肢			
下肢			
その他			

アレルギー	食物（ ） 薬（ ） その他（ ）
-------	-------------------------

対応 サマリー	経過観察 救急処置をした：（ ） 搬送を依頼した： 時 分、搬送先：（ ）病院 依頼したい内容：
------------	---

記入者	氏名： 職種： 連絡先：
-----	-----------------

資料2 リスク表(妊婦)

## リスク表(妊婦)

\* 妊婦さんの安全と万一の緊急対応に必要な質問です。

受付No. \_\_\_\_\_

該当する欄に○をつけてください。

妊婦氏名 \_\_\_\_\_

### A. 妊娠中の検査結果についてお答えください

(検査項目)	(正常)	(不明)	(経過観察中)	(治療中)	備考
B型肝炎	なし	不明	あり・治療無	治療中	
C型肝炎	なし	不明	あり・治療無	治療中	
HIV	なし	不明	あり・治療無	治療中	
梅毒	なし	不明	あり・治療無	治療中	
淋病	なし	不明	あり・治療無	治療中	
クラミジア	なし	不明	あり・治療無	治療中	
ヘルペス	なし	不明	あり・治療無	治療中	
B群溶血連鎖球菌	なし	不明	あり・治療無	服薬中	
HTLV	なし	不明	あり・治療無		
風疹抗体	32倍以上	不明	16倍以下		
貧血	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
甲状腺機能異常	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	亢進症・低下症
糖尿病	なし	不明	あり・服薬無	インスリン治療中	
気管支喘息	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
てんかん	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	
慢性腎臓病	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
精神疾患	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
心臓病	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
血液疾患	なし	不明	あり・服薬無	服薬中	病名
子宮筋腫	なし	不明	様子観察中	帝王切開予定	
高血圧	なし	不明	時々高めになる	服薬中	
むくみ	なし	不明	時々ある	いつもある	
尿蛋白	なし	不明	時々陽性になる	いつも陽性	
胎盤位置異常	なし	不明	低置胎盤	前置胎盤	
羊水異常	なし	不明	様子観察中	精密検査予定	
血液型不適合	なし	不明	あり・経過観察中	処置・手術予定	
胎児の位置異常	なし	不明	不明	帝王切開予定	骨盤位・横位・他

\* 記憶がはっきりしない項目は「不明」の欄に○をつけておいてください。

### B. 出産経験のある方で、下記に当てはまることはありませんか？

妊娠高血圧症候群	出産時・産後の出血多量(500ml以上)	
早産( 週 )	死産	新生児死亡
鉗子・吸引分娩	妊娠中・産後のうつ症状	





## 避難所等母子保健 標準アセスメント票

※事前把握項目	避難所名 (施設名)	市町村名	
	避難者数 人( 月 日現在)	避難所 責任者氏名	
※事前把握項目	評価年月日	西暦 20 年 月 日	
	評価時在所 避難者数	人 (AM/PM 時現在)	
	評価者氏名 職種	氏名: 所属: 職種: 1 保健師 2 助産師 3 自治体職員 4 医師 5 その他( )	
		連絡先 (電話等)	情報収集法
		※ 実施した方法をすべてチェック <input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> 責任者等からの聞き取り (役職・氏名: ) <input type="checkbox"/> 避難者からの聞き取り ( 人程度) <input type="checkbox"/> 現場の観察 <input type="checkbox"/> 支援活動等を通じて把握 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
項目	簡易評価	確認項目 (※確認できれば数値や具体的内容を記載)	特記事項
(1) 特に 配慮が必要 な対象者		a 乳幼児(就学前) (約 人 or%), 不明 b 妊婦 (約 人 or%), 不明 c 高齢者(75歳以上) (約 人 or%), 不明 d 障がい児者・要介護者 (約 人 or%), 不明 e 有病者 (約 人 or%), 不明 f 外国人 (約 人 or%), 不明	
(2) 産科ニーズ	(◎・○・△・×・ー)	a 37週以降の満期妊婦 ( 人), 不明 (具体的に: ) b ハイリスク妊婦 ( 人), 不明 (具体的に: )	
(3) 母子必需品 等の確保	(◎・○・△・×・ー)	a-1 オムツ(新生児用) 1 充足, 2 不足(約 人分), 3 不明 a-2 オムツ(乳幼児用) 1 充足, 2 不足(約 人分), 3 不明 b おしりふき 1 充足, 2 不足(約 人分), 3 不明 c 湯沸し 1 充足, 2 不足(約 人分), 3 不明 d 洗浄・滅菌器具 1 充足, 2 不足(約 人分), 3 不明 e ミルク 1 充足, 2 不足(約 人分), 3 不明 f その他( ) 1 充足, 2 不足(約 人分),	
(4) 環境整備	(◎・○・△・×・ー)	a 授乳室 1 あり, 2 ない, 3 不明 b 保温・保湿 1 している, 2 ほとんどしていない, 3 不明 c 乳幼児の介助サポート 1 している, 2 ほとんどしていない, 3 不明 d 安静・休憩可能な部屋 1 あり, 2 ない, 3 不明	
(5) 体調の 訴え・異常	(◎・○・△・×・ー)	a 疾患がある者 1 いない様子, 2 いる(約 人) b 健康障害がある者 1 いない様子, 2 いる(約 人) (つわり、腰痛等による) c 他の問題*がある者 1 いない様子, 2 いる(約 人) * (具体的に: )	
(6) 歯科保健医療 の確保	(◎・○・△・×・ー)	a 近隣の受診可能な産科診 療所・仮設診療所 1 あり, 2 ない, 3 不明 b 巡回産科チームの訪問 1 あり(定期的), 2 あり(不定期), 3 ない, 4 不明	
その他の問題	具体的に:		

※ 書ききれない情報や関連情報は、特記事項欄に記入してください。

※ 簡易評価の定義：◎良好・問題なし、○ほぼ良好・ほぼ問題なし、△やや問題あり、×大いに問題あり、ー：不明

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">妊</div>		①	②	③	待機所	部屋	A	B	C	D
		氏名		出産予定日	年齢	住所			連絡先	
同伴乳幼児 無・有		名前			名前			備考		
		才			才					
安否情報確認のための情報開示(住所・氏名・転出先等)							同意する・同意しない			
* 避難所記入欄										
受付No.	入所月日	入所場所	移動	転出月日	転出先			備考		

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">母子</div>		①	②	③	待機所	部屋	A	D		
		母親氏名		子供の名前・年齢 ( 才) ( 才)			備考			
住所										
連絡先										
安否情報確認のための情報開示(住所・氏名・転出先等)							同意する・同意しない			
* 避難所記入欄										
受付No.	入所月日	入所場所	移動	転出月日	転出先			備考		

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">妊</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">予</div> 月 日		室	
				室
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">母</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">乳</div>	カ月		室
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">母</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">乳</div>	カ月		室

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">妊</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">予</div> 月 日		室	
				室
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">妊</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">幼</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">予</div> 月 日		才
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">母</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">乳</div>	カ月		室
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">母</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">乳</div>	カ月		室

部屋割り表(妊婦)		受付No. _____									
入所された方の治療処置や対応を効率的に行うための質問です 入所者票と名札にも記入し、受付にお持ちください 乳幼児同伴の場合は部屋割り表 1 と 1-②、母子用名札2枚に記入してください											
( 月 日 時 分)	妊婦氏名										
① どこかにケガをしていますか？											
<input checked="" type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい	それはどこですか？									
② 発熱、咳、鼻水、吐き気や嘔吐(つわりを除く)、下痢などの症状がありますか？											
<input checked="" type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい	○をつけてください									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">発熱</td> <td style="text-align: center;">咳</td> <td style="text-align: center;">鼻水</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">吐き気</td> <td style="text-align: center;">嘔吐</td> <td style="text-align: center;">下痢</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">発熱と同時期に出た湿疹</td> </tr> </table>			発熱	咳	鼻水	吐き気	嘔吐	下痢	発熱と同時期に出た湿疹		
発熱	咳	鼻水									
吐き気	嘔吐	下痢									
発熱と同時期に出た湿疹											
③ 陣痛様、生理痛様のお腹の痛みや破水、出血などがありますか？											
<input checked="" type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> はい	○をつけてください									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">痛み</td> <td style="text-align: center;">破水</td> <td style="text-align: center;">出血</td> <td style="text-align: center;">胎動消失</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">その他気になること</td> </tr> </table>			痛み	破水	出血	胎動消失	その他気になること				
痛み	破水	出血	胎動消失								
その他気になること											
①②③ が全て	<input checked="" type="radio"/> いいえ	B 室									
①②③ が全て	<input checked="" type="radio"/> いいえ	で乳幼児同伴の方 A 室									
①、③ に	<input type="radio"/> はい	② は									
	<input checked="" type="radio"/> いいえ	待機所 又は C 室									
② に	<input type="radio"/> はい	D 室									
* 入所後に体調が変わった場合はナースステーションにおいでください											

## 部屋割り表(母親と乳児)

受付No. \_\_\_\_\_

入所された方の治療処置や対応を効率的に行うための質問です  
 入所者票と名札(母子同じ物2枚)にも記入し、受付にお持ちください  
 上の兄弟同伴ならその子の分をそれぞれ用紙 1-②と名札にも記入してください

( 月 日 時 分)

母親氏名

乳児氏名

① どこかにケガをしていますか？

母親

いいえ

はい

それはどこですか？

乳児

いいえ

はい

② 発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状がありますか？

○をつけてください

母親

いいえ

はい

発熱      咳      鼻水  
 吐き気      嘔吐      下痢  
 発熱と同時期に出た湿疹  
 その他の気になる症状

乳児

いいえ

はい

発熱      咳      鼻水  
 吐き気      嘔吐      下痢  
 発熱と同時期に出た湿疹  
 その他の気になる症状

③ 発熱・乳房痛・しこりなどの乳腺炎様の症状ありますか？

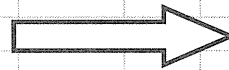
いいえ

はい

② に

はい

がついている方



D 室

それ以外の方



A 室

けがの治療は医師が到着次第順次呼びますので部屋でお待ちください

# 部屋割り表 (きょうだい)

受付No. \_\_\_\_\_

入所されたお子さんの治療処置や対応を効率的に行うための質問です  
記入したら、親子の用紙を一緒にして受付にお持ちください。  
お母さんと同じ名札でお子さんの分を記入してください。

( 月 日 時 分 )

母親氏名

児の氏名

① どこかにケガをしていますか？

それはどこですか？

いいえ

はい

② 発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状がありますか？

○をつけてください

いいえ

はい

発熱      咳      鼻水  
吐き気      嘔吐      下痢  
発熱と同時期に出た湿疹  
その他の気になる症状

母子のどちらかでも

はい

がついている



D 室

それ以外のお子様はお母さんと共に A 室 でお待ちください

けがの治療は、医師が到着次第順次呼びしますので部屋でお待ちください

情報書(妊婦)		受付No.	室
妊婦氏名	ふりがな	今回の出産 初めて 2回目 ( )回目	
生年月日	年 月 日 才	血液型 型 RH( )	
出産予定日	年 月 日	現在の妊娠週数 週 日	
おなかの赤ちゃんの数	ひとり 双子 他( )	母子手帳 (持参・紛失・自宅)	
通院中の医療機関		保険証 (持参・紛失・自宅)	
出産予定の医療機関		帝王切開予定	無・有
最後の妊婦健診日	年 月 日 異常 無・有( )		
特に注意するように 言われていること			
現在の身長・体重	身長 cm 体重 g	妊娠前の体重 g	
今までにかかった病気	無・有( )		
アレルギー	無・有( )		
服用中の薬	無・有( )持参 無・有		
家族の所在	夫	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
連絡先 ( )	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 家族全員を記入	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 一緒に入所する	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
お子さんに丸印	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 今困っていること			
(備考)			

情報書(母親)		受付No. _____	_____ 室
母親氏名	ふりがな	今回の出産 初めて 2回目 ( )回目	
生年月日	年 月 日 才	血液型 型 RH( )	
今回の出産年月日	年 月 日	出産週数 週 日	
今回の赤ちゃんの数	ひとり 双子 他( )	(普通・鉗子・吸引)分娩・帝王切開	
かかりつけの医療機関		保険証 (持参・紛失・自宅)	
アレルギー	無・有( )		
今までにかかった病気	無・有( )		
治療中の病気	無・有( )		
服用中の薬	無・有( ) 持参 無・有		
家族の所在	夫	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
連絡先	子供 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
	( ) 男女 才	自宅 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 家族全員を記入	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 一緒に入所する	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
お子さんに丸印	( ) 男女 才	自宅 勤務場所 親戚・知人宅 ( )避難所 他( )不明	
* 今困っていること			
(備考)			





情報書（乳幼児）

受付No. \_\_\_\_\_ 室 \_\_\_\_\_

母親氏名			第( )子
子供の氏名	ふりがな		血液型 型 RH( )
出生年月日	年 月 日		出生体重 g
最近の計測	身長 cm	体重 g	母子手帳 (持参・紛失・自宅)
子のかかりつけの医療機関			保険証 (持参・紛失・自宅)
妊娠中から出生後の お子さんの異常	無・有 ( )		
アレルギー	無・有( ) 除去食(している・していない)		
今までにかかった病気	突発性発疹 はしか 風疹 水ぼうそう おたふくかぜ		
	感染性胃腸炎 手足口病 伝染性赤班(リンゴ病)		
	その他		
治療中の病気	無・有( )		
服用中の薬	無・有( ) 持参 無・有		
医師から 注意されていること	無・有 ( )		
予防接種歴	<input type="checkbox"/> インフルエンザ b型(ヒブ) 回		<input type="checkbox"/> 肺炎球菌 回
	<input type="checkbox"/> BCG	<input type="checkbox"/> ポリオ(生) 回 (不活化) 回	
	<input type="checkbox"/> 3種混合(DPT)	回	<input type="checkbox"/> 4種混合(DPT+ポリオ) 回
	<input type="checkbox"/> ロタウィルス	回	<input type="checkbox"/> はしか風疹混合 回
	<input type="checkbox"/> みずぼうそう	回	<input type="checkbox"/> おたふくかぜ 回
	<input type="checkbox"/> 日本脳炎	回	<input type="checkbox"/> B型肝炎 回
	<input type="checkbox"/> その他		
主な栄養法	母乳 人工乳 離乳食 幼児食 その他( )		
今、お子さんのことで困っていること 無・有 ( )			
備考			

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
大規模災害時に向けた公衆衛生情報基盤の構築に関する研究  
分担研究報告書

保健部門における EMIS 活用のあり方に関する研究

研究分担者 鶴和美穂 国立病院機構災害医療センター臨床研究部

研究要旨

災害急性期の医療を担う DMAT が情報発信、情報共有ツールとして救急医療情報システム (EMIS) を使用している。このシステムは被災地内外の DMAT、行政が利用できるシステムとなっており、適切かつ迅速な支援活動をおこなうためにも必要不可欠なシステムとなっている。本システムにおいて、保健部門が活用すべき項目について検討、整理をおこなった。病院被災情報、避難所情報、DMAT 本部情報は医療部門と保健部門が連携を図るうえでも活用できる情報項目であると考えられ、保健部門への EMIS 使用方法のさらなる普及、また実際に EMIS を利用した医療部門との連携訓練や研修が今後の課題である。

A. 研究目的

災害急性期に DMAT や行政が扱う救急医療情報システム (EMIS) において、保健部門が活用すべき項目について明らかにする。

B. 研究方法

EMIS が平成 26 年 8 月に改訂された。その改訂版 EMIS において、保健部門が災害時に活用すべき項目について、埼玉県における保健行政を含む保健関係者との健康危機管理研修を通じて検証し、検討、整理をおこなった。

(倫理面への配慮)  
配慮が必要となる研究に該当しない。

C. 研究結果、考察

①医療機関被災情報：EMIS では被災地における病院被災情報が共有できるシステムとなっている。病院被災情報においては、緊急時入力情報と詳細入力情報に分かれて

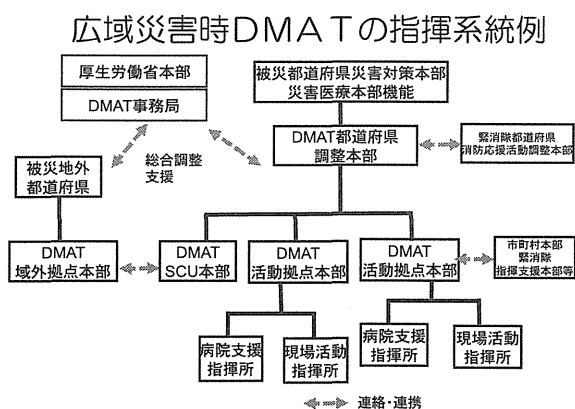
おり、緊急時入力情報は各医療機関における安否情報に相当するため、できるだけ早い入力、情報発信が各医療機関には求められている。項目内容は「入院病棟の倒壊、または倒壊の恐れがある」「ライフライン・サプライ状況（電気、水道、医療ガス、医薬品・衛生資器材）」「患者受診状況（多数患者受診の有無）」「職員状況（職員不足の有無）」となっており、発災後に保健行政が収集する情報、また対応が求められる内容が含まれており、これらの緊急時入力情報項目は活用すべきであると考えられた。また、迅速な支援活動に繋げていくためには、できるだけ早く情報収集、ニーズの把握をおこなうべきであり、EMIS を通じて医療と保健行政が情報共有を図ることも重要であると考えられる。

また詳細入力情報において、ライフライン・サプライ状況項目では「自家発電機燃料の残日数」「医療ガスの残日数」「食糧の備蓄状況、残日数」「医薬品の残日数」など

細かい情報を入力できるようになっており、保健行政が対応を求められる内容項目が含まれている。よって、緊急時入力情報だけでなく、詳細入力情報も活用し、円滑な支援対応に繋げていくことが保健行政には必要ではないかと考えられた。

②DMAT 本部情報：急性期の医療を担う DMAT は、都道府県庁、災害拠点病院に本部を設置する（図 1）。

図 1



保健と医療の連携は必須であり、DMAT 本部と各地域の保健部門は連携を取りながらの活動が求められる。EMIS では、DMAT 本部の設置場所、また DMAT 本部の連絡先を入手することが可能であり、その部分でも EMIS の活用は有効であると考えられた。

③避難所情報：EMIS では避難所情報も取り扱う。DMAT は避難所の評価や避難所での医療保健活動をおこなうこともあり、その場合には EMIS 上の避難所情報入力を利用される。実際に平成 26 年 11 月 23 日に発生した長野県神城断層地震において、DMAT により避難所情報入力がおこなわれ活用された。この EMIS における避難所情報入力項目は、全国保健師長会作成の避難所日報項目と整合性をもたせた項目となっている。よって、EMIS における避難所情報項目においても保

健部門は十分に活用できると考えられ、また本項目に関して EMIS 上での情報共有、連携を保健部門は医療部門と図る必要があると考えられた。

#### D. 結論

災害時の急性期医療を担う DMAT や行政が情報発信、情報共有ツールとして利用している救急医療情報システム (EMIS) は、医療だけでなく保健に関する情報も取り扱っており、また医療部門との連携を図る上でも有用なツールであることが明らかとなった。しかし、EMIS の機能につき保健部門関係者は十分に熟知しているとは言い難く、また、医療部門と保健部門との連携のあり方についても理解している保健部門関係者は少ない。保健部門関係者への EMIS 使用法のさらなる普及、また実際に EMIS を使用した医療部門との連携訓練、研修が今後の課題である。

#### E. 研究発表

○学会発表

鶴和美穂、近藤久禎、小井士雄一

大規模災害時における DMAT と保健行政との連携、第 20 回日本集団災害医学会総会；2015 年 2 月；東京

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

なし